



支援員だより

第6号

平成21年(2009年)3月発行

発行者：山口県・財団法人山口県ひとづくり財団

もくじ

- P1 支援員さんの声
- P2 種を保護するということ
山口県のツキノワグマの現状
と保護への取組
- P3 西中国山地で絶滅が心配され
る3種の哺乳動物を探る
ミニみに知識
- P4 イベント情報、お知らせ



支援員さんの声



たなべ 度部 てつきく 哲朝 さんより

日々の生活の中での自然に対する思い、研修会での感想等を支援員のおふたりにお寄せいただきました。



私は、四国松山の片田舎で育ちました。

夏休みには、ラジオ体操の前に虫の集まるドングリの木を見て回り、立派な角を持つカブトムシが捕まれば、会場で自慢したものです。

子供の頃は四季を通して、戸外での遊びに夢中になっていました。

やがて就職をして家庭を持つと、家族と共に転勤、引越を繰り返しました。

家族でのハイキング、キャンプには子供の友人が加わり、多くの楽しい思い出となっています。

先日、角島での研修会には、夫婦で参加させていただきました。その日は珍しく男子高校生の参加がありました。その姿を目にして、孫達も自然に興味を持ち、大切に思うことが出来る青年になって欲しい、またそうした考えの友達が多く出来ることを願っています。

今は観察会で、孫達と自然の中を歩く日の来ることを楽しみにしています。



家の庭続きの草むらに、ヤブコウジの小さな群生があります。白い花が咲き、冬には真っ赤な実がなり見る者を楽しませてくれます。あまり手を加えることなく、大切に見守っていきたいと考えています。



くろだ さちこ 黒田 幸子 さんより

「希少野生動植物保護支援員」に登録していますが、時々研修会に参加するくらいで大した活動はしていません。しかし研修会で学んだ事により、見過してきた自然の神秘的な営みや動植物の生態等を知る事ができ、自然に対する意識がより深まったと思います。盗掘や開発から野生生物を守る事は勿論ですが、自分が日頃生活している地域の環境にも目を向け、地球温暖化防止等の為に自分自身の生活を見直すきっかけになりました。



また、好きな山歩きの時など頂いたワッペンを身に付ける事で活動を広くアピールする事になり、野生生物保護に対する声掛けがしやすくなったと感じています。

小さな思いと行動ですが、これも地道な保護支援活動だと思っています。



支援員の方の活動の様子、身近な自然についてのお便りをおまちしております。

小笠原諸島は、東京から約 1000km 南の太平洋上にある典型的な海洋島で、多くの固有種が存在しています。ムニンノボタンもその1つで、5弁で紅紫色の花をつけるノボタンと違い、4弁の白い花をつけます。戦後の調査で父島だけに3株確認されましたが、道路工事の影響などによって枯死し、一時は現存する株が1株だけになりました。その株が枯死すると「絶滅」です。この危機を打開するため、1983年から保護増殖事業が行われました。幸いなことに苗の増殖に成功し、自生地付近などに植え戻されて、少しずつ原状を回復しています。しかし、ここまで回復させるためには、気の遠くなるほど多くの時間と労力が必要でした。このことは、一度、絶滅に瀕した植物を救うことは並大抵のことではなく、そこに至る前に保護することが、いかに重要であるかを示しています。

山口県では、2002年にレッドデータブックが出版されました。そこには、北方系のエヒメアヤメや、南方系のタシロランなど多種多様な植物が掲載されています。そして、それらの植物が絶滅に瀕する原因は一様ではありません。このような絶滅危惧種を保護していくために、私たちは何をすれば良いのでしょうか。まず、野生植物に対する多面的な知識を身につけ、自然の状況を自分の



エヒメアヤメ

の目で確かめることだと思います。次に、視野を広げ、将来にわたって種の多様性を維持するために、今何をすべきかをしっかり考えることだと思います。さらに、そのことを自分の周囲の人たちに伝えることが大切です。このような活動は、自分一人だけの努力では限界があります。全ての人々が「野生生物の種の保護」の意義を理解しないと克服できない問題です。野生生物が安心して暮らせる環境は、「ヒト」にとっても必要なはずで



タシロラン

山口県のツキノワグマの現状と保護への取組

○ 現状

山口県に生息するツキノワグマは、西中国地域（島根県、広島県、山口県）個体群に属し、県東部の西中国山地の森林を主要な生息地としています。

西中国地域個体群の生息数は約500頭で、生息数が少なく孤立した個体群であることから、環境省の「レッドデータブック」では「絶滅のおそれのある地域個体群」に、本県の「レッドデータブックやまぐち」では、ツキノワグマは「絶滅危惧ⅠA類」として掲載されています。

○ 保護への取組

平成14年に特定鳥獣(ツキノワグマ)保護管理計画を策定し、人とクマとの共生を目指した取組を行っています。

・ 放獣の実施

イノシシ捕獲用のわなに誤って捕獲された場合などには、再び人里に出没しないよう、人里離れた生息環境のよい山奥に放獣を行っています。（平成20年6頭放獣）

・ クマ出没警報システムの推進

クマの出没が頻繁にみられる場合などに「警報」を発令し、市町、警察、クマレンジャー隊（猟友会）等で構成するクマ出没緊急対策会議を開催して、関係機関の連携による住民への注意喚起、安全確保、誘引物の除去等被害防止対策を講じています。

・ 錯誤捕獲防止の取組

クマの出没時にはくくりわなを撤去するか輪の直径を小さく（12cm以内）するよう指導しています。



齧歯(げっし)目リス科のニホンリス(*Sciurus lis*)は絶滅のおそれのある地域個体群(環境省)・絶滅危惧ⅠA類(山口県)に指定され、山口県内では1981年以降目撃・捕獲情報はなく、絶滅が危惧されています。同じくリス科ニホンモモンガ(*Pteromys momonga*)は絶滅危惧Ⅱ類(山口県)に指定され、樹上性生活者であり、夜行性であるため、鳥用の巣箱で繁殖し、目撃された以外は目撃・捕獲情報はありません。齧歯目ヤマネ科ヤマネ(*Glirulus japonicas*)は、1975年に国の天然記念物に、準絶滅危惧(環境省)・絶滅危惧ⅠB類(山口県)にも指定され、偶然の目撃・捕獲以外の情報はありません。いずれの種も日本にしか生息していない日本固有種で、早急に生息・生態を把握し、保護保全対策が必要です。



巣箱を利用していたヤマネ



ビデオカメラで撮影できたニホンモモンガ

2008年より、地球環境基金の助成を得て、県境付近の西中国山地を中心に、3種の生息モニタリング調査を実施しています。ニホンリスはアカマツ林を中心に、自動カメラによる撮影と食痕などの痕跡調査を行っています。樹洞を利用するニホンモモンガとヤマネは、巣箱を利用することがわかっていますので、計300個の巣箱を設置し、利用するのを待ちます。これら調査には、これまでのべ20人以上の調査ボランティアの方の協力で、痕跡調査、巣箱設置及び利用調査を行ってきました。

11月になり、ニホンリスまたはムササビと考えられるマツの球果の食痕、ヤマネの巣箱の利用の確認ができ、ニホンモモンガの撮影にも成功しました。その後複数の地域で、マツの球果の食痕、ヤマネの巣箱利用が確認できています。現在、一緒に調査に参加して下さる方を募集しております。地道な作業ですが、動物たちの暮らしを垣間見ることができます。参加をお待ちしております。



ニホンリスまたはムササビと考えられるマツの球果の食痕

◇ 調査希望者連絡先 ◇

〒753-0073 山口市春日町8-2

山口県立山口博物館 田中 浩(動物担当) Tel 083-922-0294 Fax 083-922-0353

Email: tanaka.hiroshi.O4@pref.yamaguchi.lg.jp



ミニみに知識

「レッドデータブックやまぐち」より

策定の目的

「レッドデータブックやまぐち」は、県内に生息・生育する野生動植物を対象に、絶滅のおそれのある種を選定し、分布状況や生息状況を明らかにすることにより、野生動植物の保護対策に資するための基礎資料として策定されました。

策定の時期

平成14年3月：レッドデータブックやまぐち(貝類を除く1,036種)

平成15年3月：レッドデータブックやまぐち(貝類40種)

レッドデータブックやまぐちの活用

国や県が保護対策を行うための基礎資料とする他、絶滅危惧種等について広く県民や事業者にも周知し、県民一人ひとりの理解と協力による保護を期待するとともに、事業活動に当たっては、保護について必要な配慮を行うよう、関係者へ働きかけることとしています。

カテゴリー

カテゴリーは、「レッドデータブックやまぐち」に掲載されている種の絶滅の度合いを示すものです。

カテゴリーには、絶滅危惧ⅠA類、絶滅危惧ⅠB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧などの区分がありますが、もっとも絶滅のおそれの度合いの高い絶滅危惧ⅠA類が「レッドデータブックやまぐち」に掲載されている種の約3割を占めています。



イベント情報

自然環境学習拠点施設の行事予定です。

イベントによっては申し込み、参加費が必要なものがあります。詳細は各施設にお問い合わせください。各施設共に展示物等常設しています。ぜひ、ご訪問ください。

	秋吉台エコ・ミュージアム TEL 08396-2-2622 (火曜休館)	きらら浜自然観察公園 TEL 0836-66-2030 (月曜休館)	つのしま自然館 TEL 083-786-0430 (火曜休館)
4月	12日(日) 桜祭り 19日(日) 秋吉台地下水系保全 1～湧泉の調査	12日(日) 楽しいバードウォッチング入門 29日(祝) 春まつり	29日(祝) 春の自然観察会
5月	10日(日) エコツアー～初夏の秋吉台の花をもとめて 17日(日) カエルが待っている!	3日(日) ベッコウトンボの観察会 10日(日) 楽しいバードウォッチング入門 24日(日) 秋吉台の野鳥を訪ねて	
6月	13日(土) 秋吉台お花畑プロジェクト1 28日(日) 秋吉台のカタツムリ	14日(日) 楽しいバードウォッチング入門 28日(日) きらら浜トンボ観察会	
7月	5日(日) 森の昆虫教室～カブトムシ 19日(日) 森の昆虫教室～クワガタムシ	12日(日) 楽しいバードウォッチング入門 26日(日) 夏休み子ども早朝自然観察会	27日(月) 夏の自然観察会

愛鳥週間「水辺の清掃活動」2009年

山口県と(財)日本鳥類保護連盟山口県支部は、平成21年度愛鳥週間普及啓発事業の一環として、5月10日～6月30日の間、釣りの関係団体((財)日本釣振興会山口県支部等)と連携して、「人と野鳥が仲良くできる水辺づくり」を目標に、愛鳥週間「水辺の清掃活動」2009の取組を計画しています。

詳細が決まりましたら、報道発表や山口県自然保護課のホームページへの掲載等を行いますので、ご覧になった方は、ぜひ参加してください。(参加料は無料です)

※ 山口県ホームページ「自然とふれあう行事の一覧について」では、その他にも多くの場所で実施される行事を掲載しています。是非、ご覧ください。アドレスは以下のとおりです。

<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a15600/gyouzi/kyouseigyousi.html>



山口県からのお知らせ

支援員の皆様に、Eメールで自然環境の保全活動や講演会等について情報提供をしています。まだEメールアドレスを登録されていない方は、自然保護課までご連絡ください。

・ 支援員募集についての御協力をお願い

お陰をもちまして2月末現在で375名もの方々に支援員に登録をいただいています。

県としては、希少野生動植物の保護の輪をさらに広げていきたいと考えていますので、ご家族やお知り合いに支援員への登録を呼びかけていただくなど、ご協力をお願いいたします。※応募用紙が必要な場合は、県自然保護課にご連絡ください。また、山口県ホームページからも応募用紙を取得できます。

・ 平成21年度支援員研修会の開催

平成21年度も、年3回の研修会を開催する予定ですので、積極的なご参加をお待ちしています。(6月、10月、11月頃に開催予定)

(連絡先) 〒753-8501 山口市滝町1-1 山口県環境生活部自然保護課 担当: 林
 電話: 083-933-3050 FAX: 083-933-3069
 Eメール: a15600@pref.yamaguchi.lg.jp

発行元: (財)山口県ひとづくり財団 県民学習部 環境学習推進センター

〒754-0893 山口市秋穂二島1062 (山口県セミナーパーク内)

TEL 083-987-1110 FAX 083-987-1720

URL <http://eco.pref.yamaguchi.lg.jp/learning/>

